

令和元年 8 月 20 日

学校法人呉竹学園
東京医療専門学校
校長 齊藤 秀樹 殿

東京医療専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

平成 30 年度 項目別の自己評価表に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施したので、その結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ① 岩元 健朗 (岩元鍼灸院接骨院 院長)
- ② 大竹 健一 (株式会社ケッツトレーナー 代表取締役)
- ③ 二神 幸一 (ふたがみ治療院 院長)
- ④ 西沢 正樹 (帝京平成大学 助教)
- ⑤ 内野 直樹 (内野鍼灸整骨院 院長)
- ⑥ 春日井 有輝 (法政大学 兼任講師)
- ⑦ 吉崎 正恒 (東京都立 東大和高等学校)

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 令和元年 7 月 28 日(日) 於 東京医療専門学校 四谷本部校舎 5 号館
第 2 回委員会 令和 2 年 1 月予定

3. 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

項目別の評価について

1. 教育理念・目的・育成人材像

教育理念、目的、人材育成等々は教務規程に定められており、学校案内、ホームページ、在校生用冊子（学修の手引き）等で広く周知されている。

育成人材像は、外部人材から構成される教育課程編成委員会にて業界の求める人材像を聴取し教育に反映するとともに、企業等の協力を得て実習を実施している。また、平成26年3月に職業実践専門課程の認定を受けている。

中期的な将来構想として第三者評価の受審に向けた準備が進められており、今後の教育の質の担保に向けた取り組みが期待される。

2. 学校運営

学校運営は理事会及び校長会の決定に基づいて行われており、事業計画に定められた運営方針に従って運営されている。

設置法人の運営組織は寄付行為に規定された理事会及び評議委員会で構成されており、学校運営の組織は学則及び組織規程に基づいて運営されている。各校における意志決定は、教務会の議を経て校長が決定している。

人事・給与について新しい人事評価制度の導入が検討されており、教職員の適正な評価と人材育成、ひいては組織の活性化に繋がることを期待する。

情報システム化については、学園3校を繋ぐ学内ネットワーク（VPN）が構築されており、学生募集、就職支援（求人検索システム）及び経理処理等についてオンラインシステムが導入され、業務の効率化や姉妹校間の情報共有化が図られている。情報セキュリティへの対応については、インターネットの出入口にセキュリティ機器が設置され常時モニタリングされており、外部からの攻撃や学内からの情報漏洩に対して対策されている。

個人情報管理及びリスク対応教育を徹底され、さらに安全な学校運営を目指していただきたい。

3. 教育活動

教育活動については、教育方針及び育成人材像等に基づき展開されており、教育課程編成委員会を年2回開催することにより、業界のニーズに合致するよう課程毎に授業科目や教育内容等を見直している。

教育目標、教育方針及び育成人材像等については、ホームページ・学校案内・在校生に配布する学修の手引き等により広く周知されており、具体的な到達目標及び授業計画については、シラバスにおいて明示されている。教員及び講師の専門を活かしたゼミナールや、毎月開催される斯界有識者による特別授業を通じて学生に最新の知見を紹介していることを評価する。

授業評価については、学生による授業評価アンケート及び学生満足度調査を毎年度実施し、学科ごとに教育活動の把握に取り組んでいることを評価する。

成績評価及び進級・卒業の認定は学則及びディプロマポリシーに基づいて適正に行われており、資格取得の指導体制も万全である。国家試験不合格者に対する支援体制については、国家試験予備校 Kuretake 塾を運営し本学園卒業生のみならず他校卒業生についても受け入れており、国家試験合格率は既卒者全国平均を大きく上回っている。

教員の資質向上については、全教員が外部のコーチング講座を受講している。また、学園内に設置された教育センターによる FD 活動、学校協会主催の教員研修会、学会・業団等の勉強会に組織的に参加することで、教員の能力開発、スキルアップに努めている。

今後も業界の模範となる教育活動に期待する。

4. 学修成果

就職については、業界で活躍する卒業生によるキャリアガイダンスや合同企業相談会等の実施により継続的に支援が行われており、平成 30 年度卒業生の就職率は 97.0%と前年度の 92.6%より高い数値となっている。就職先の確保までを教育に組み込む施策を評価する。

国家資格の取得については、経験豊富な教員陣が全員合格を目標として国家試験の対策と指導を行い、また国家試験予備校である Kuretake 塾で培われた知見を卒前教育に反映した結果として、平成 30 年度卒業生の国家試験合格率は、あん摩マッサージ指圧師 100%、はり師 100%、きゅう師 100%、柔道整復師 97.7%と、全学科とも前年度実績及び全国平均を上回る実績を残した。

卒業生の社会的評価の把握については、校友会組織「呉竹会」、就職先及び実習先との連携や卒業生の広報取材、関係団体が主催する学術大会等を通じて進められているが、卒業生を数多く輩出している学校として、今後一層の卒業生との連携を期待する。

5. 学生支援

就職支援については、学生の主体的な就職活動を推進するべく学生支援室を設置したことを評価する。治療院や業界等との連携を通じて、採用情報や卒業生の活躍情報等を積極的に吸い上げ、学内で共有し就職指導に活用していただきたい。高校卒業見込みにて入学するような若い学生に対しては、履歴書の書き方や面接指導、社会人としてのマナー教育といった基本的な部分から支援していくことが望まれる。

退学率については、成績不良や出席不良を発端に退学につながることが多いことから、全クラス担任制を採り入学後や進級後速やかに学力を把握し、個別面談、補習等の対策が行われていることを確認した。平成30年度の退学率は全体で5.1%であったが、基礎学力対策や学習方法の指導をはじめ、一定数ある金銭的事情による退学に対する指導など、引き続き教員間の情報共有を密にしてしっかりと方策を検証していただきたい。

学生相談に関する体制については、学年ごとに担任・副担任が置かれており、学生が相談しやすいよう複数の教員で対応できる体制が整っている。なお、姉妹校で導入予定である学生の心理的なケアに関する専任カウンセラーの設置については、引き続き検討されることになっている。

経済的支援体制については、独自の奨学金制度、授業料減免制度、特待生制度が設けられているほか、令和2年度から国が行う高等教育の授業料等負担軽減制度（大学等の修学支援に関する法律）の認定を受けるべく申請準備が進められている。

学生の健康管理については、法令に基づき毎年度健康診断及びレントゲン検診が行われている。また、校内や実習先における事故に備え、学生傷害災害保険及び医療分野賠償責任保険に加入させている。

保護者との連携については、若年層の入学者比率が高まっている昨今では、保護者会の定期的な開催を通じて保護者との交流の機会を設け、教育活動の課題等について意見交換を行うなど、相互理解が必要な時代になっていると言えるため、保護者会の開催が望まれる。

卒業生への支援については、校友会組織である呉竹会が主催する講演会及び懇親会を通じて卒業生に交流の場を提供しており、一方、卒後臨床研修講座を受講することによって、卒業後のスキルアップを図ることができる。また、産学連携による卒業後の再教育プログラムとして、鍼灸関係の職能団体・学会・教育機関等が協働設立した任意団体に選任教員を派遣している。

6. 教育環境

校舎の施設・設備は、設置基準及び関係法令に基づいて、教育上必要な備品が備えられている。平成30年3月には新校舎として四谷本部校舎5号館が竣工した。

学外実習については、法令改正後速やかに学外臨床実習の指導者を養成する講習会を開催することで学外施設との連携を強化し、学生の臨床実習の充実化に向けて取り組まれていることを評価する。

安全管理体制については、学校安全計画に基づいて適切に管理されている。消防計画に基づいて防災訓練が実施されていることと、災害用飲料水、非常食及び防災用品が備蓄されていることを確認した。一方、過去に制定された危機管理マニュアルの内容については、大規模災害を想定した内容に更新することを望む。

7. 学生の募集と受入れ

学生募集は、東京都専修学校各種学校協会の入試倫理要綱に従って適切に実施されている。

ホームページ更改、募集支援システム導入、各種SNSの新設、学校案内の更新、WEB媒体の導入等を活用して積極的に情報発信がなされていることは評価できる。また、高校進路ガイダンスへの参加、指定校をはじめとする高校進路指導部への訪問、オープンキャンパス・学校説明会の開催、個別学校見学への対応など精力的に取り組んでいる。

今後は受験生の減少に歯止めをかけるべく、学校の強みとなる教育内容について他校との差別化を明確にし、付加価値の提供についても検討していただき、受験生の確保に努めていただきたい。また、受験者減によって入学者の学力水準の担保が年々難しくなっているため、大学等で導入されつつあるインターネットによる出願システム、入学試験の手法や入学前の教育について検討を求める。

8. 財務

財務状況については理事会監査を経てホームページに公表されているが、借入金は100周年記念事業の一環として進められている新校舎建替え費用といった部分的なものであり、繰越利益金もプラスで推移しているため、健全な財務基盤を有していると言える。

平成30年のカリキュラム変更に伴い経費負担が増加していることから、平成31年度（令和元年度）より学納金体系を変更することとなったが、近年入学者数の減少等により減収傾向にあるため、収入の確保（入学者増・退学者減）と経費節減についてより一層の注力を望む。

9. 法令等の遵守

学校運営は関係法令に基づいて適切になされている。

外部講師による研修を通じて、コンプライアンス、ハラスメント及び個人情報の取り扱いについて教職員の啓発を行っている。

インターネットセキュリティーについては、サーバーに専用のセキュリティーゲートを設置し、外部からの不正アクセスやデータの流出を防いでいる。また、ホームページの安全性を担保するため、平成 30 年度にセキュリティー認証（SSL 化）を行った。

学校評価については、自己点検自己評価の結果に基づいて学校関係評価が年 2 回実施され、教育活動及び学校運営の改善の取り組みが行われている。また、その結果についてホームページに公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

新宿区の子ども家庭支援センターやこども園と連携して東洋療法の啓蒙活動及び地域の子育て支援活動を定期的に行っていること、学校附属の 3 施術所（鍼灸科・柔道整復科・鍼灸マッサージ教員養成科）にて年間延べ 10,000 人の外来患者を受け入れしていること、例年開催される学園祭においてチャリティー鍼灸及びストレッチ体験といった施術サービスを行っていることを評価する。また、リンパ浮腫講習会及び救急救命講習会といった医療関係者及び教員等の研修会場として学校施設を提供している。

国際交流として上海中医薬大学への短期留学（1 週間程度）が毎夏実施され、医学部にて人体解剖を行う解剖コースをはじめ 3 コースが設定されている。平成 30 年度は学術交流 30 周年を記念した式典が開催され、上海中医薬大学から短期留学生を受け入れて、日本の伝統医療について学術交流を行った。

学生のボランティア活動では、軽井沢ハーフマラソン、東京ヤマソン、新宿シティマラソンにおけるボランティアスタッフとして教員が帯同し学生ボランティア活動の支援を行っている。

以上